

2019政策フォーラム⑥

第2セッション：安全・健康・ゆとり・働きがい

実現するための検証運動の教化

○「大宮駅内勤・情報体制見直し」施策の検証

～利用しやすい駅づくり～

大宮地本：大宮駅分会

大宮駅分会では、「社友会では働きやすい職場は創れない」「東労組の必要性」を訴え、2月に行われた社員代表選挙では、JR東労組組合員が社員代表に選出されました。以降、安全衛生委員会を通じて職場の諸課題の解決に向けて現場長と議論し、分会情報を活用しながら離脱者も含めて広く活動をアピールしてきました。その中で、地本一支社間で提案された「大宮駅内勤・情報体制の見直し及び案内業務の委託」施策では、職場議論と平行して支部・地本と連携し団体交渉に参加して大宮駅分会執行部として創りだしてきました。

今施策は、オリンピック・パラリンピックを来年に控え、交通弱者と言われるお客さまに対して駅で抱える課題を「安全・働きがい」の観点で組合員の声を基に提言を行います。職場検証を通じて組合員・離脱者の信頼を勝ち取り再加入へと繋げていきます。

鉄道業界No.1を目指すために必要なのは、
安全・健康・ゆとり・働きがいのある職場！！

○2020まであと1年、成田エクスプレスを変革し、

オリンピック・パラリンピック輸送を職場からつくりだそう！

東京地本：東京車掌区分会

インバウンド需要が拡大し、オリンピック・パラリンピック開催を控え、東京車掌区分会では約2年かけて成田エクスプレス(NEX)の検証を取り組み、NEXにまつわる問題からJR東日本が抱える課題が見えてきた。また、台風による運転見合わせや、京成線運転見合わせなどの異常時についても検証を積み重ねた。職場から出発した検証活動は、支部フォーラムでJRバスの課題を、地本フォーラムで各系統の議論を取り入れ、系統を超えた提言へと高めた。さらに、JR他社の先進事例や技術革新についても調査した。

オリンピック・パラリンピック、その先訪日6000万人時代への対策と、そして未来の鉄道のあるべき姿にまで踏み込む現場からの提言とします。

⑦へ続く